

一般社団法人日本老年看護学会の概要

目的：老年看護学の学術的発展と教育・普及、看護実践の質向上を図り、もって人々の健康と福祉に貢献すること

設立：1995年11月

会の概要：会員数 2,964人

- ・半数が看護系大学等の教育・研究職、
半数が病院や施設・訪問系の看護職
- ・今年6月に別府で開催した学術集会には1,835人が参加

認知症基本法および認知症施策推進基本計画を受けた取り組み

「認知症の人と医療機関の架け橋となる看護への提言」を策定し、
2026年3月31日に公開

- 認知症基本法に関わる活動の推進を課題とし、プロジェクト委員会を組織した（2024年度）。

具体的には、2016年に作成した「急性期病院において認知症高齢者を擁護する日本老年看護学会の立場表明」の刷新に取り組んだ。

- 会員へのWEB調査、会員（老人看護専門看護師、認知症看護認定看護師、教員等）および当事者（ご本人、ご家族）へのインタビューを行い、案を作成した。
- 会員への周知を図り、当事者の方々にもコメントをもらって推敲を重ね、理事会の承認を経て、表記提言をホームページに公開した（2025年度）。

認知症の人と医療機関の架け橋となる看護への提言

提言1．看護職は、自らの認知症に対する認識を振り返り、時代に合うに認知症観へと更新していきます。

提言2．看護職は、認知症の人をひとりの人としてとらえ、認知症の人の日々の意向に気づき、誠実に意思決定支援を積み重ねていきます。

提言3．看護職は、認知症の人ならびに家族との対話を通して、認知症の人が望む生活を共有し、その実現に向けた最善の看護を提供していきます。

3-1 安全の確保と医師に基づく行動の自由を両立していく看護

3-2 認知症の人の言葉や表情、振る舞いに深い関心を寄せ、伝えたい思いに真摯に向き合う看護

3-3 受領前後の生活の継続性に注目し、認知症の人の「できること・やりたいこと」を引き出す看護

認知症の人と医療機関の架け橋となる看護への提言(続き)

3-4 医療機関の内外に在るさまざまな人々と手を携え、認知症の人と家族の
多様なニーズに応える看護

3-5 認知症の人にとって居心地がよく、本人の持てる力を引き出す環境を創る
看護

3-6 これまでに表明された認知症の人の思いを紡ぎ、自分の人生を生きること
を守る看護

提言4．看護職は、認知症の人の家族がおかれている状況や揺れる思いを受け止め、
最善の選択と対応ができるよう支援していきます。

提言5．看護職は、地域共生社会の中で、医療機関が認知症の人と家族から信頼さ
れる存在となるよう力を尽くしていきます。

***ホームページには簡易版のほか、用語の定義や解説を含む詳細版も掲載。**



認知症の人と医療機関の 架け橋となる看護への提言

簡易版のチラシ

当学会は、『「急性期病院において認知症高齢者を擁護する」日本老年看護学会の立場表明2016』を公表しました。「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の施行を医療機関における認知症看護の質向上を図る好機ととらえ、この立場表明の刷新に取り組みました。よりよい看護実践が、認知症の人と医療機関の間に信頼の架け橋を築くことを願い、新たに「認知症の人と医療機関の架け橋となる看護への提言」としてまとめました。

この提言では対象範囲を広げ、対象範囲を年齢を高齢者に限定せず、多様な認知機能の状態を含む「認知症の人」と定義し、医療機関（病院・病棟・外来・診療所）での活用を想定しています。

- 提言 1

看護職は、自らの認知症に対する認識を振り返り、時代に合う認知症観へと更新していきます。
- 提言 2

看護職は、認知症の人をひとりの人としてとらえ、認知症の人の日々の意向に気づき、誠実に意思決定支援を積み重ねていきます。
- 提言 3

看護職は、認知症の人ならびに家族との対話を通して、認知症の人が望む生活を共有し、その実現に向けた最善の看護を提供していきます。

3-1 安全の確保と意思に基づく行動の自由を両立していく看護

3-2 認知症の人の言葉や表情、振る舞いに深い関心を寄せ、伝えたい思いに真摯に向き合う看護

3-3 受療前後の生活の継続性に注目し、認知症の人の「できること・やりたいこと」を引き出す看護

3-4 医療機関の内外に在るさまざまな人々と手を携え、認知症の人と家族の多様なニーズに応える看護

3-5 認知症の人にとって居心地がよく、本人の持てる力を引き出す環境を創る看護

3-6 これまでに表明された認知症の人の思いを紡ぎ、自分の人生を生きることを守る看護
- 提言 4

看護職は、認知症の人の家族が置かれている状況や揺れ動く気持ちを受け止め、最善の選択と対応ができるよう支援していきます。
- 提言 5

看護職は、地域共生社会の中で、医療機関が認知症の人と家族から信頼される存在となるよう日々の看護実践に力を尽くしていきます。



提言に関わる活動(本学会プロジェクト委員会による)

- エルゼビアジャパン社によるナースिंगスキル動画講義「認知症の人と医療機関の架け橋となる看護を目指して」を収録
- 第27回日本認知症ケア学会大会（6月）において、日本老年看護学会共催シンポジウム「病院を安心できる場へ；認知症の人と医療機関を繋ぐ看護の探究と提言」を担当
- 日本老年看護学会第31回学術集会（6月）において、本提言策定への経緯と内容説明をオンデマンド配信
- 日本看護協会の各都道府県支部にチラシを送付。うち、宮崎県・兵庫県・栃木県の各支部HPにて本提言を紹介
- 「パーソンセンタードな視点から未来を見つめる～パーソン・センタード・ケア『再考』」による研修会において、「認知症の人と医療機関の懸け橋となる看護への提言」を紹介（9月14日オンライン開催）

【課題】 この「提言」をPRし、普及する取り組みを行う。

この「提言」を活用して認知症看護の質向上を図る取り組みを推進する。